

# 2016年度 決算説明会

第93期(2016年4月1日～2017年3月31日)

2017年5月17日

1. 会社概要
2. 2016年度実績ならびに  
2017年度予想
3. 中期経営計画

## 本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、日本および海外の経済情勢や当社の関連する業界動向、為替変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想と大幅に異なる可能性があります。



太平洋互業株式会社

# 1-1 会社概要

## 海外6カ国12社、国内8工場

### 海外拠点

#### 《パルプ事業》

ベルギー



Pacific Industries Europe NV/SA.

中国



太平洋自動車部品科技(常熟)有限公司

タイ



Pacific Industries (Thailand) Co., Ltd.

韓国



太平洋パルプ工業株式会社

韓国



太平洋エアコントロール工業株式会社

#### 《プレス・樹脂事業》

米国



Pacific Industries USA Inc. [統括会社]  
Pacific Manufacturing Ohio, Inc.

米国



Pacific Manufacturing Tennessee, Inc.

台湾



太平洋汽門工業(股)有限公司

### 国内拠点

#### 《パルプ事業》



【北大垣工場】



【美濃工場】

#### 《プレス・樹脂事業》



【本社・西大垣工場】



【東大垣工場】



【養老工場】



【九州工場】



【堺原工場】



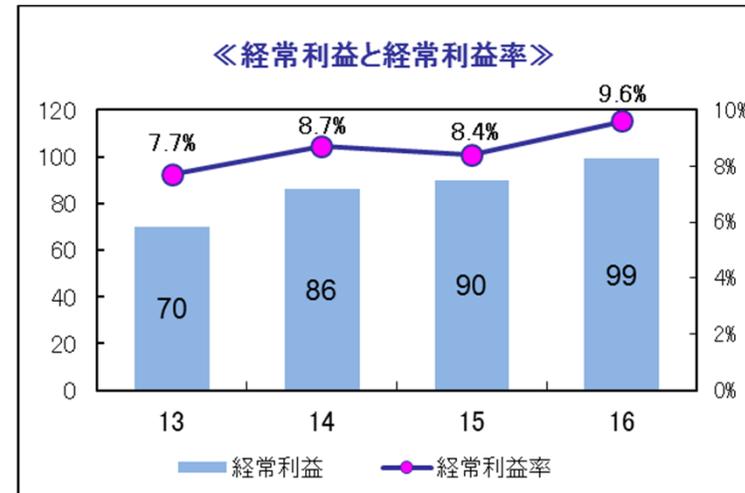
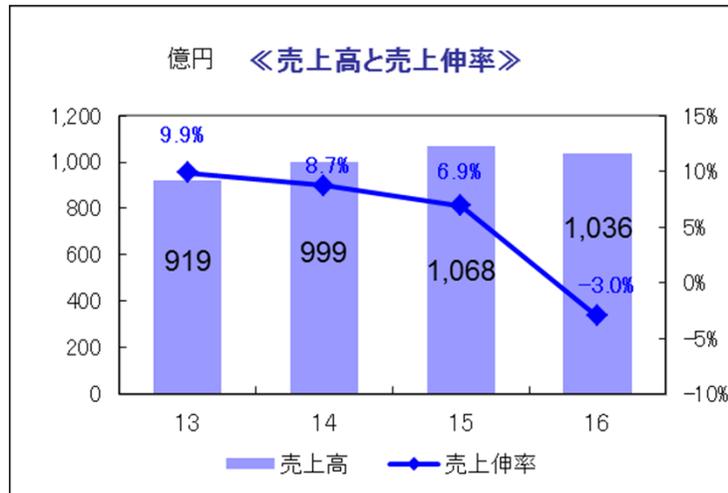
【若柳工場】

## 2-1 連結業績実績

[百万円]

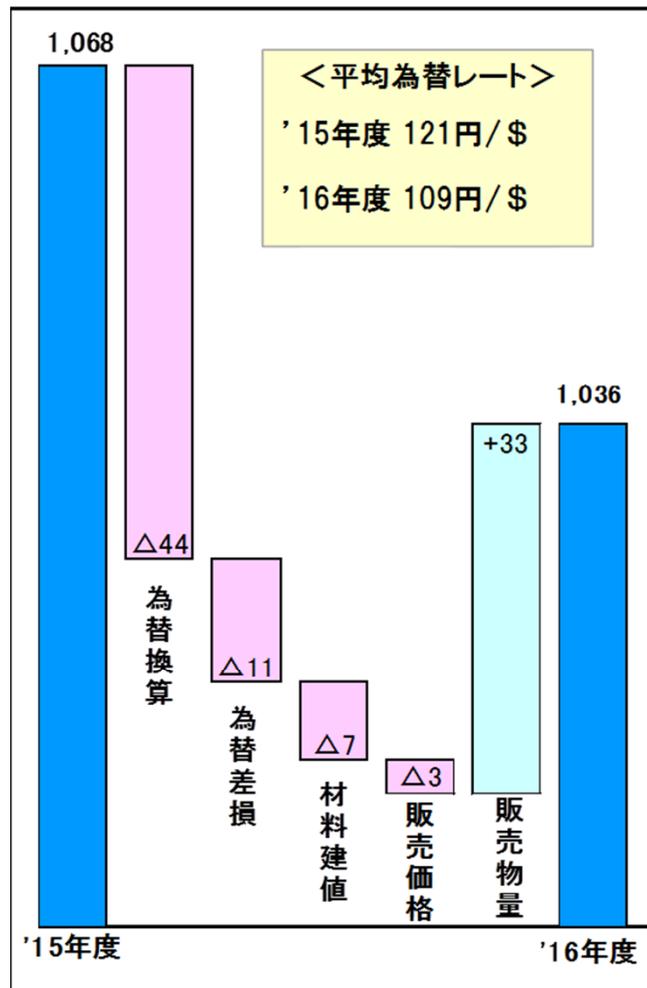
	15年度	16年度							
		17年2月 発表値	実績	連単 倍率	前期比		発表値比		
					増減	増減率	増減	増減率	
売上高	過去最高 106,886	103,000	103,669	1.6	△3,216	△3.0%	669	0.6%	
営業利益	7,869	8,100	過去最高 8,662	1.6	792	10.1%	562	6.9%	
経常利益	9,013	9,500	過去最高 9,957	1.4	943	10.5%	457	4.8%	
※1 親会社 当期純利益	7,114	7,000	過去最高 7,524	1.4	410	5.8%	524	7.5%	
売上利益 高率	8.4%	9.2%	9.6%		1.2%		0.4%		
ROE	9.7%	—	9.7%		0.0%		—		
ROA	6.8%	—	7.4%		0.6%		—		
一株当り 純資産	(円) 1,339	—	1,404		65	4.9%	—		

※1「親会社当期純利益」は、正式名称である「親会社株主に帰属する当期純利益」を短縮して表示しております。

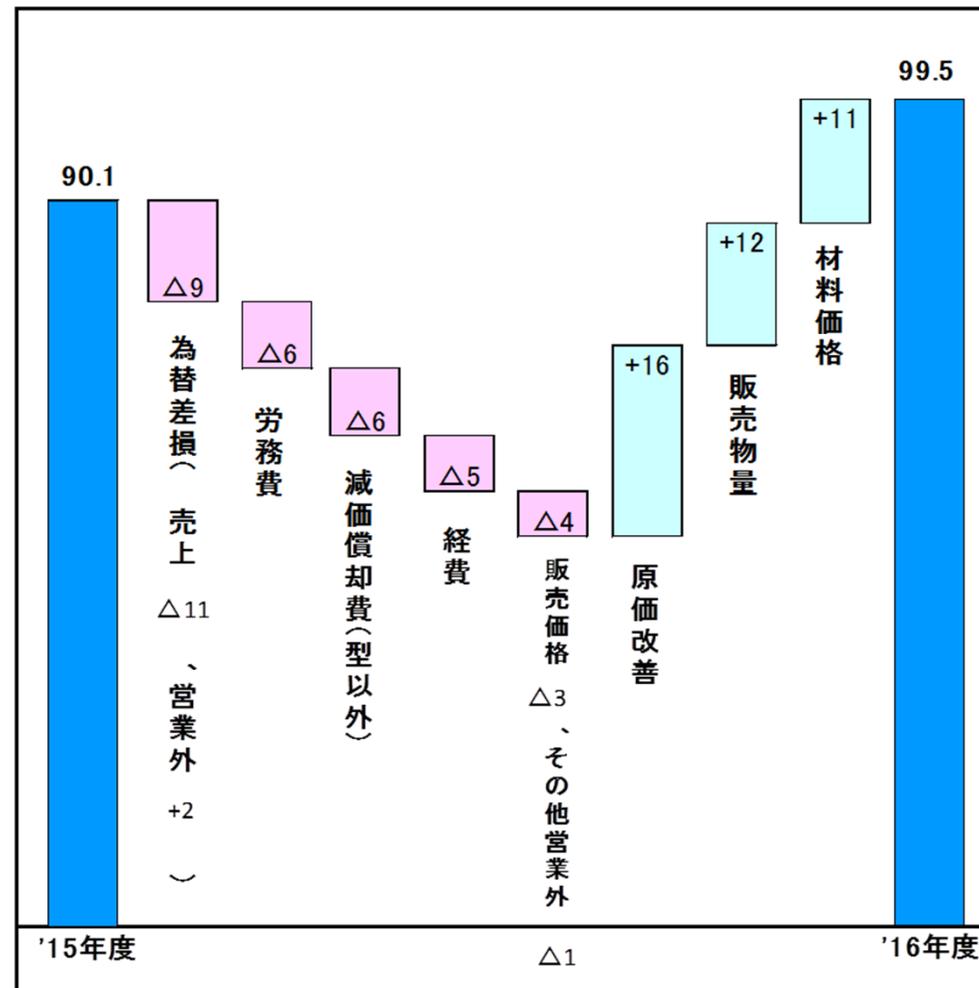


## 2-2 連結売上高・経常利益増減要因

《16年度 対 15年度》  
売上高  $\Delta 32$ 億円



《16年度 対 15年度》  
経常利益 +9億円



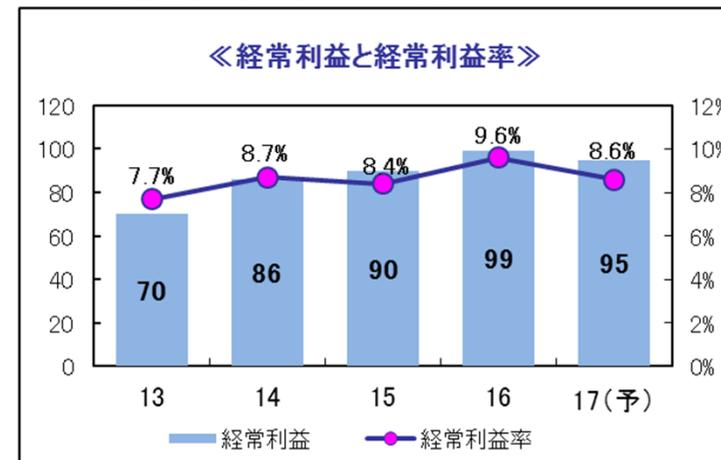
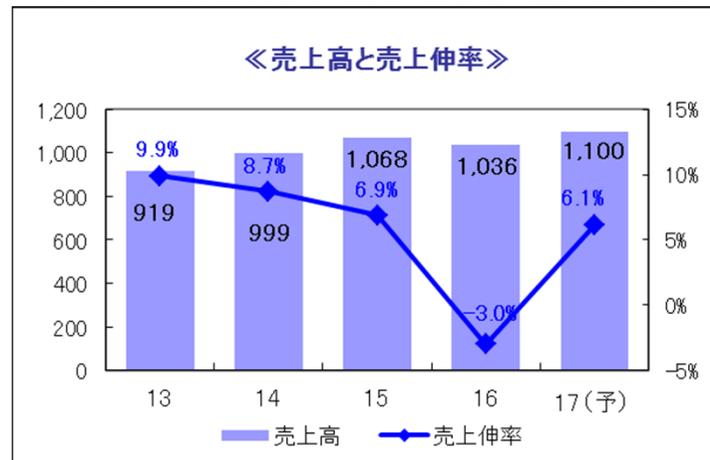
## 2-3 連結業績予想

☆最高更新見込み

[百万円]

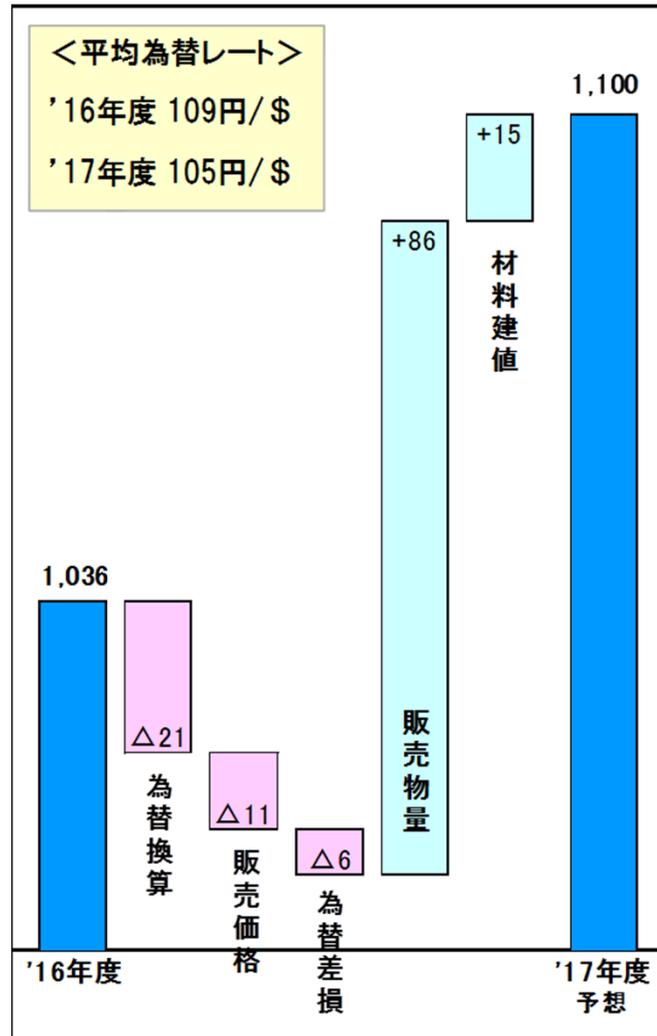
	15年度	16年度				17年度			
		実績	連単 倍率	前期比		予想	連単 倍率	前期比	
				増減	増減率			増減	増減率
売上高	過去最高 106,886	103,669	1.6	△3,216	△3.0%	☆ 110,000	1.6	6,331	6.1%
営業利益	7,869	過去最高 8,662	1.6	792	10.1%	☆ 8,700	1.7	38	0.4%
経常利益	9,013	過去最高 9,957	1.4	943	10.5%	9,500	1.6	△457	△4.6%
※1 親会社 当期純利益	7,114	過去最高 7,524	1.4	410	5.8%	6,700	1.6	△824	△11.0%
売上高 経常利益 高率	8.4%	9.6%	/	1.2%	/	8.6%	/	△1.0%	/
ROE	9.7%	9.7%	/	0.0%	/	7.8%	/	△1.9%	/
ROA	6.8%	7.4%	/	0.6%	/	6.5%	/	△0.9%	/
一株当り 純資産	(円) 1,339	1,404	/	65	4.9%	1,488	/	84	6.0%

※1「親会社当期純利益」は、正式名称である「親会社株主に帰属する当期純利益」を短縮して表示しております。

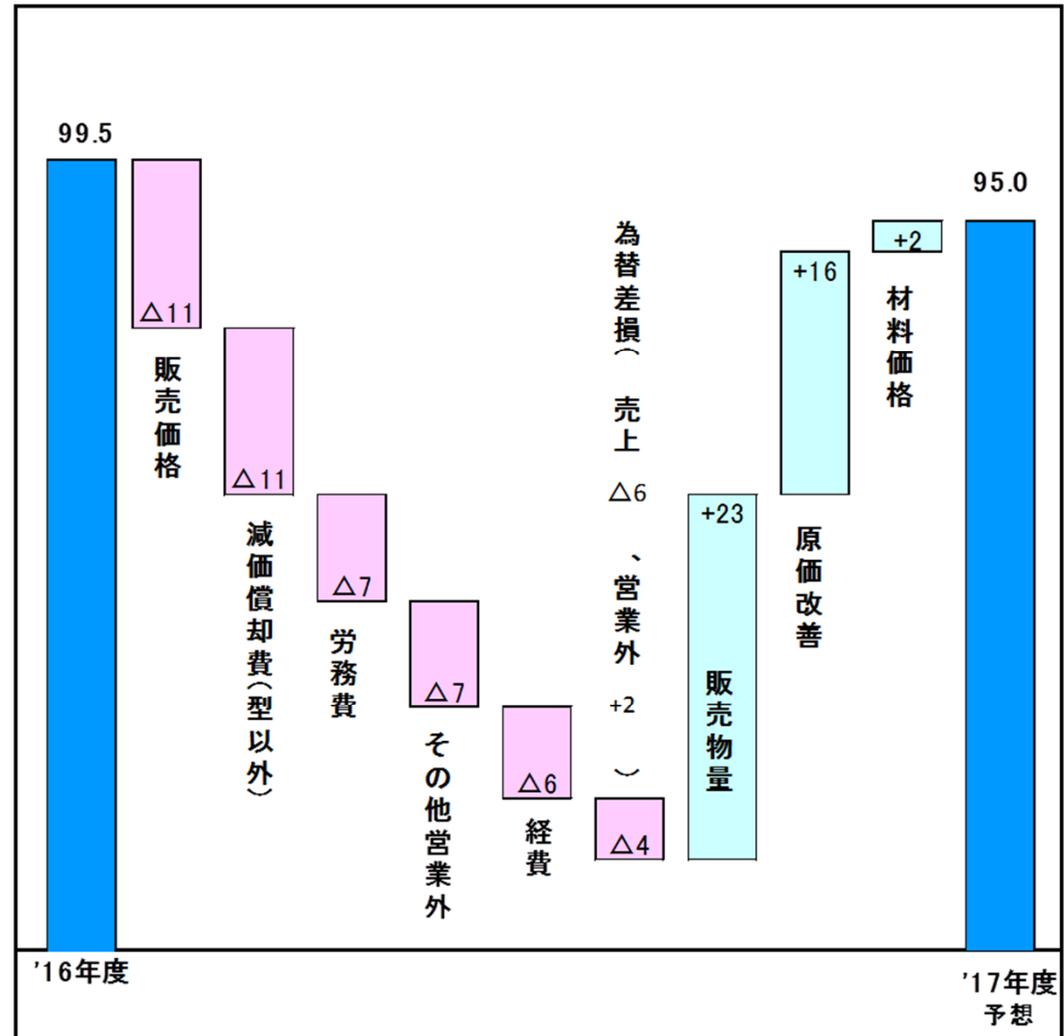


## 2-4 連結売上高・経常利益増減要因(予想)

《17年度予想 対 16年度》  
売上高+63億円



《17年度予想 対 16年度》  
経常利益△4億円

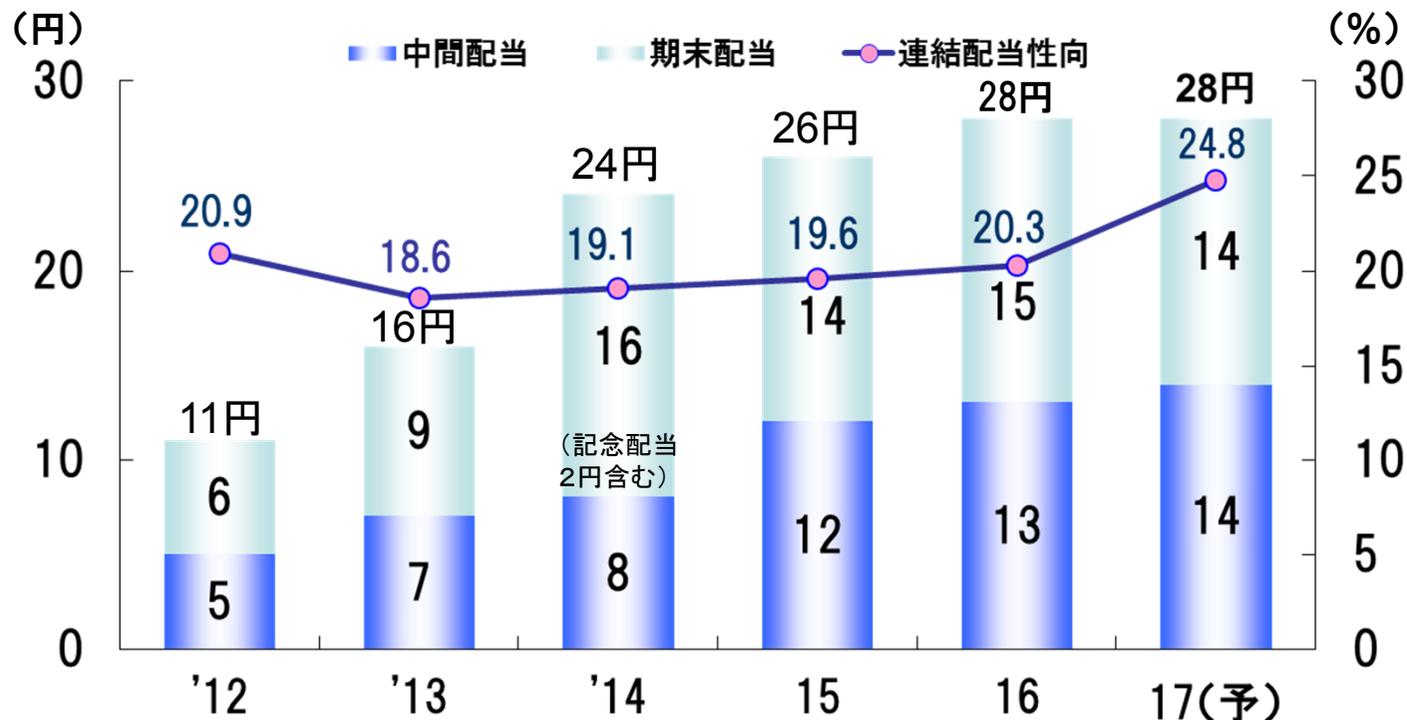


## 2-5 株主還元

### ■年間配当

2016年度 年間:28円(中間:13円 期末:15円)、配当総額:16.0億円

2017年度予想 年間:28円(中間:14円 期末:14円)、配当総額:16.7億円

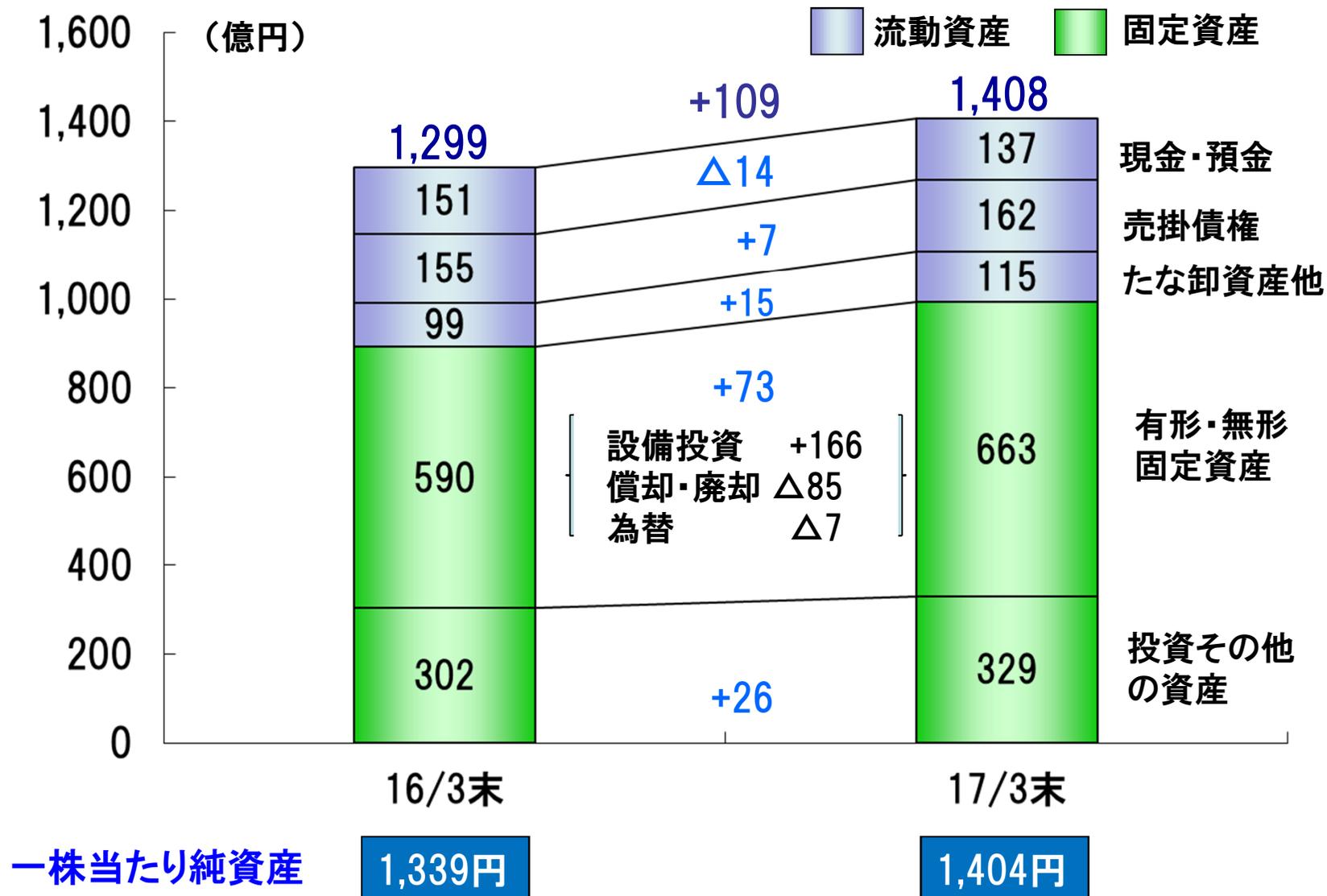


転換社債(CB)の状況(発行日:14年3月19日 償還日:19年3月19日)

	発行時	16年3月末	17年3月末	当期増減
CB発行残高(百万円)	6,000	5,635	885	△4,750
発行済株式数(千株)	54,646	55,051	60,336	5,285
資本金(百万円)	4,320	4,502	6,877	2,375

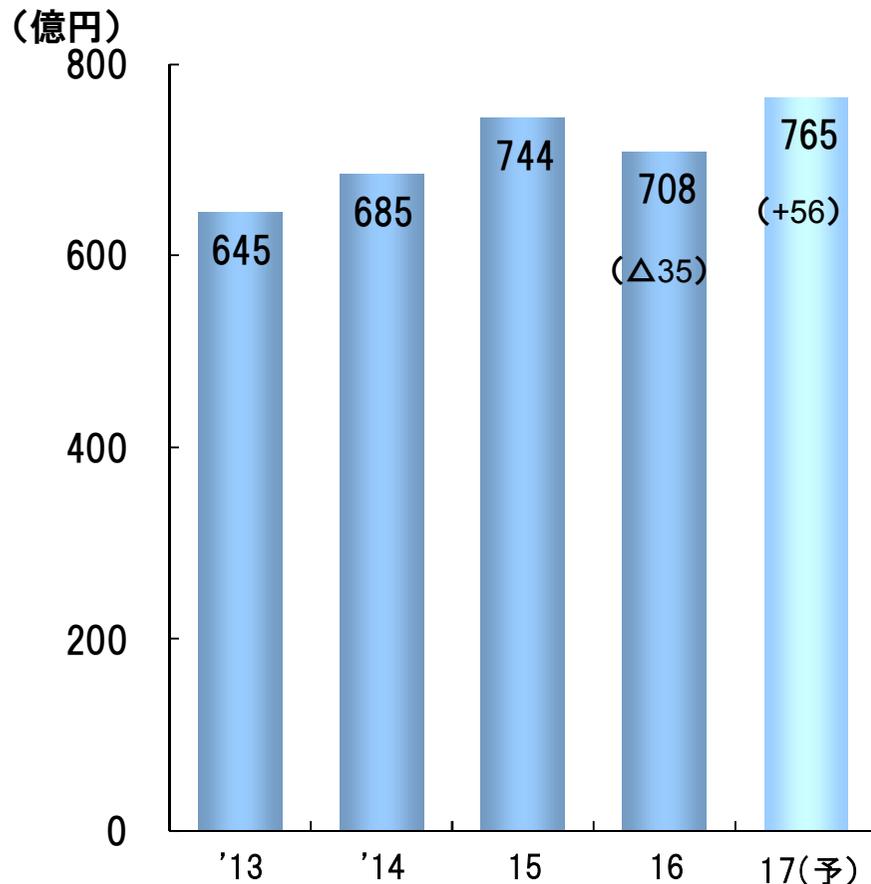
※現在の転換価額 898.8円

## 2-6 連結貸借対照表



## 2-7 事業別セグメント: プレス樹脂製品事業

### 売上高

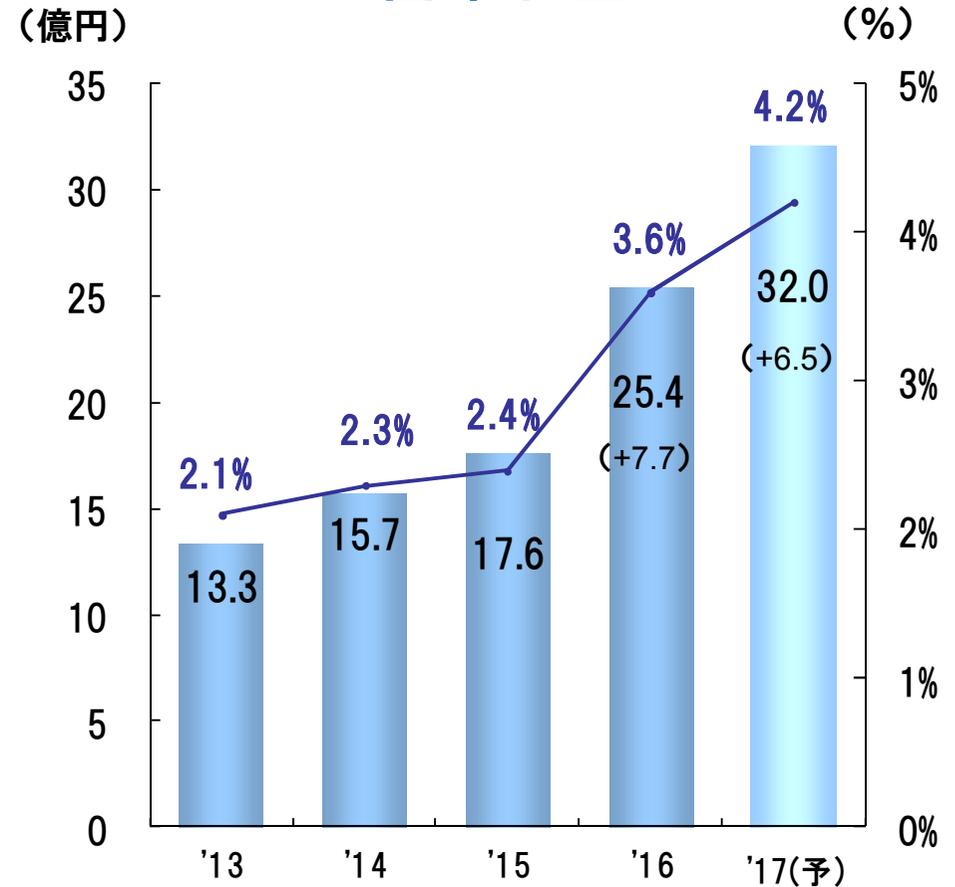


#### <売上高>

2016年度: 主要顧客の自動車生産は前期並みに推移するも、  
為替換算影響大きく、前期を下回る。

2017年度: 日本・北米・アジア共に拡販等により伸長し  
当期を上回る見込み。

### 営業利益



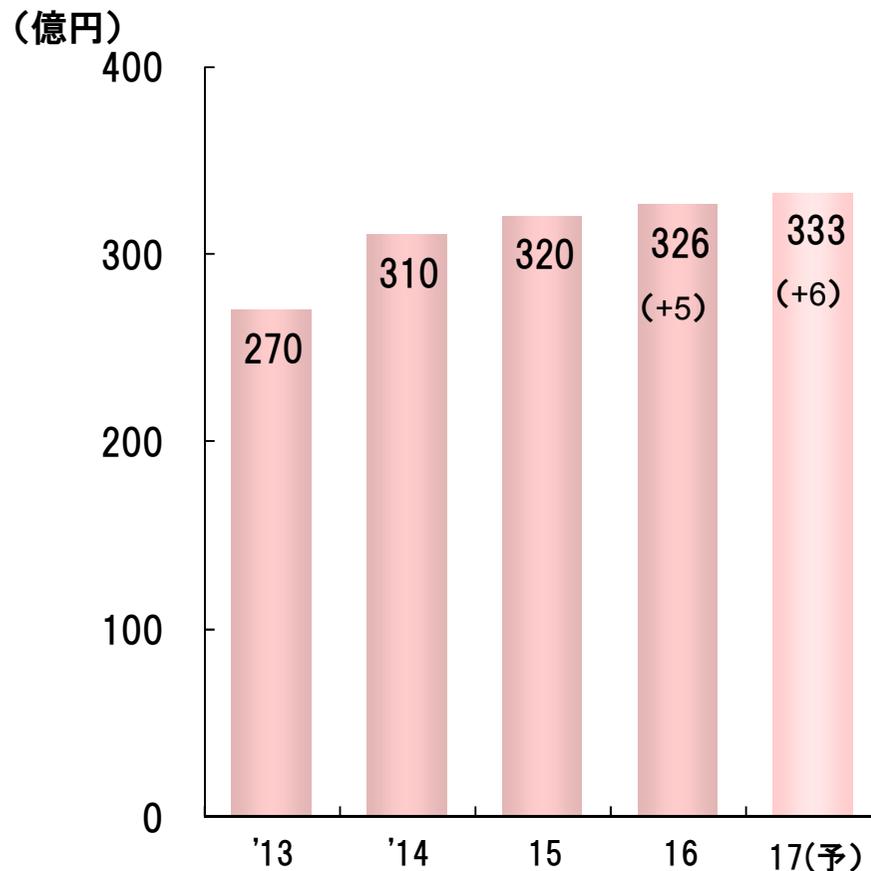
#### <営業利益>

2016年度: 海外での事業立上げ費用の減少や原価改善等が  
寄与し、増益。

2017年度: 減価償却費増加が見込まれるも、販売物量の増加  
や原価改善等により増益を見込む。

## 2-8 事業別セグメント:バルブ製品事業

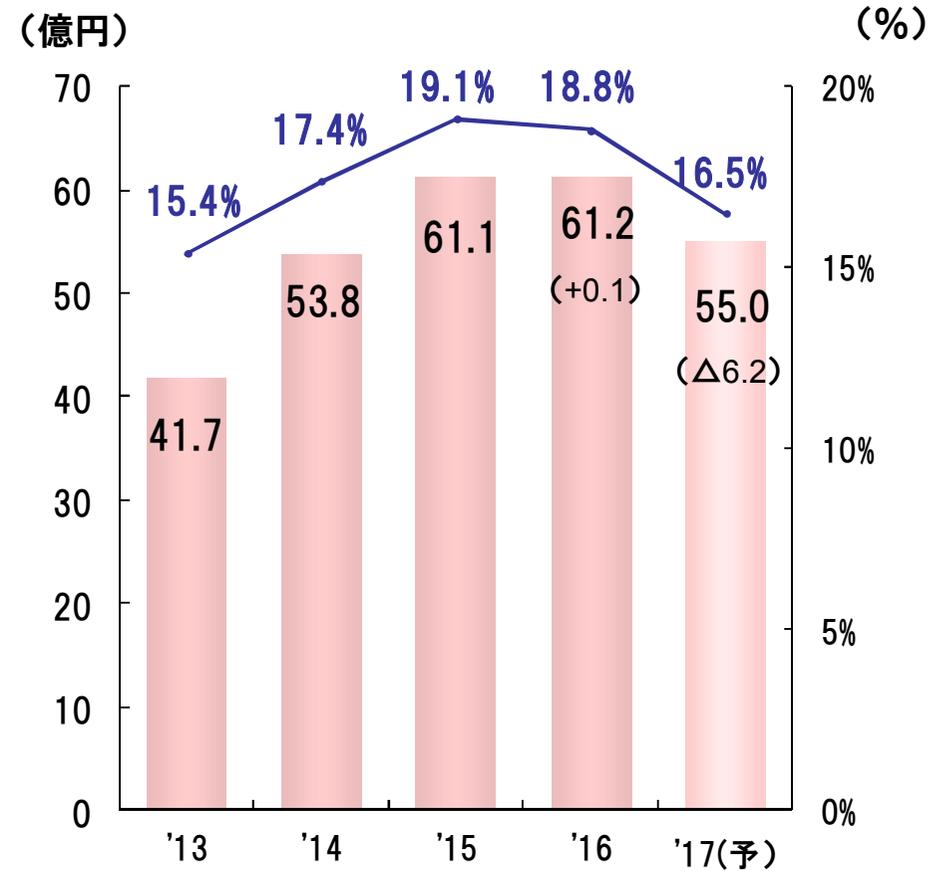
### 売上高



#### <売上高>

2016年度: 為替換算影響あるも、TPMS製品が順調に推移し、前期を上回る。  
2017年度: 円高影響あるも、韓国のアルミダイカスト、中国のTPMS製品の拡販が寄与し、当期を上回る見込み。

### 営業利益

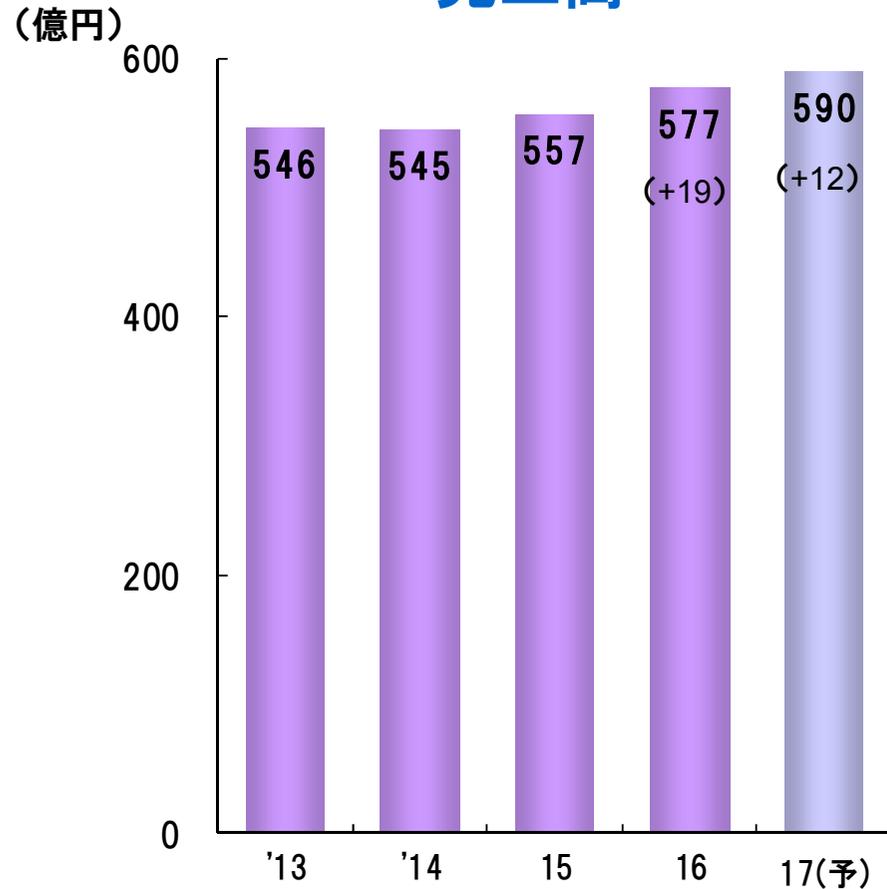


#### <営業利益>

2016年度: 為替差損があるも、販売物量の増加や原価改善等により前期並みの利益確保。  
2017年度: 物量増加あるも、為替差損や減価償却費増加等により当期を下回る見込み。

## 2-9 地域別セグメント：日本

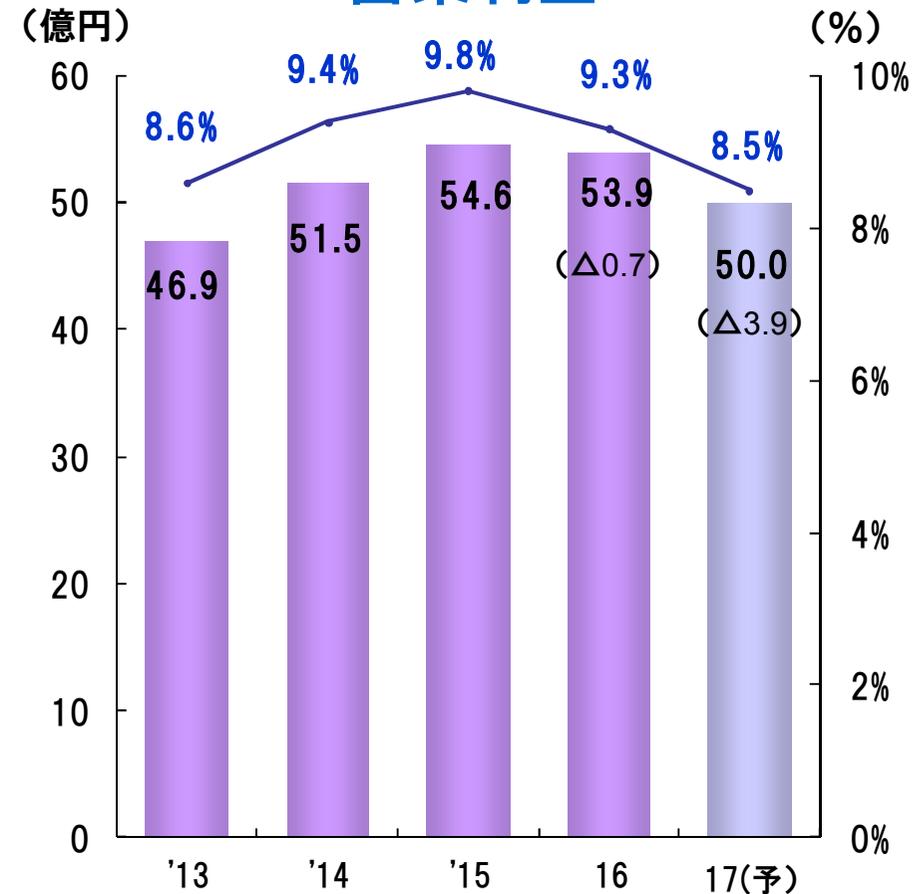
### 売上高



#### <売上高>

2016年度：為替差損があるも、主要顧客の自動車生産は堅調に推移し、TPMS製品の増加により、前期を上回る。  
2017年度：主要顧客の自動車生産は当期並みを見込むも、拡販等が寄与し、当期を上回る見込み。

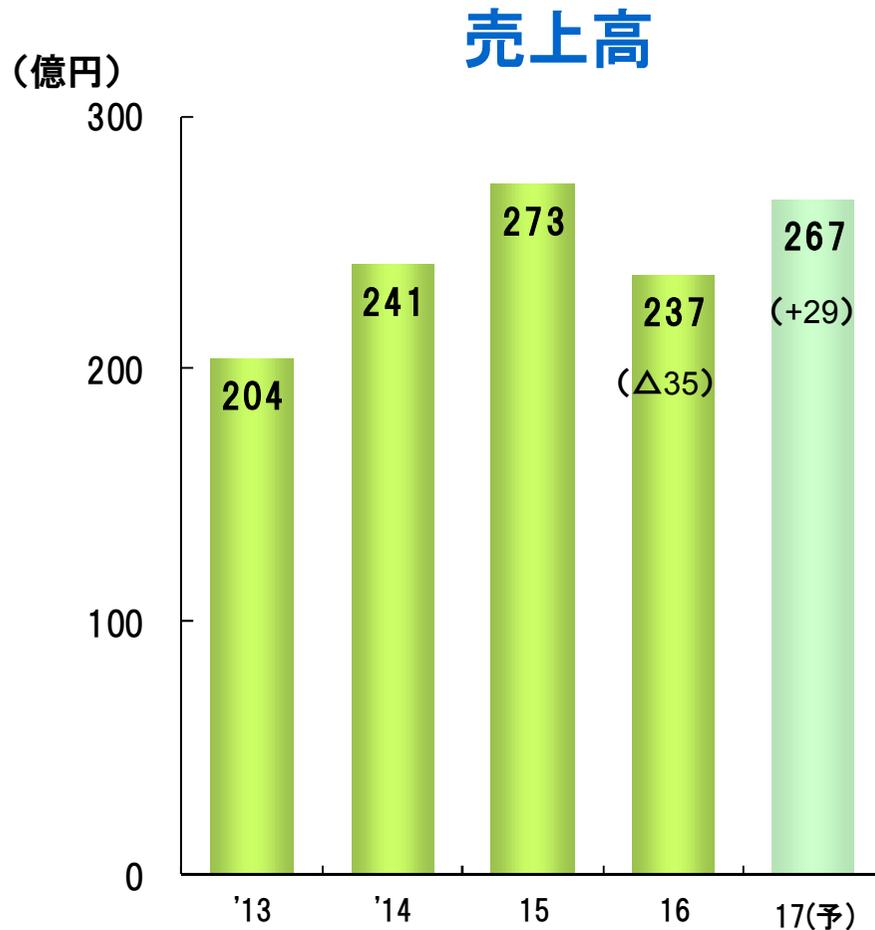
### 営業利益



#### <営業利益>

2016年度：販売物量の増加や原価改善等があるも、為替差損や労務費・経費等の増加により、前期を下回る。  
2017年度：販売価格低下や減価償却費増加、為替差損等により当期を下回る見込み。

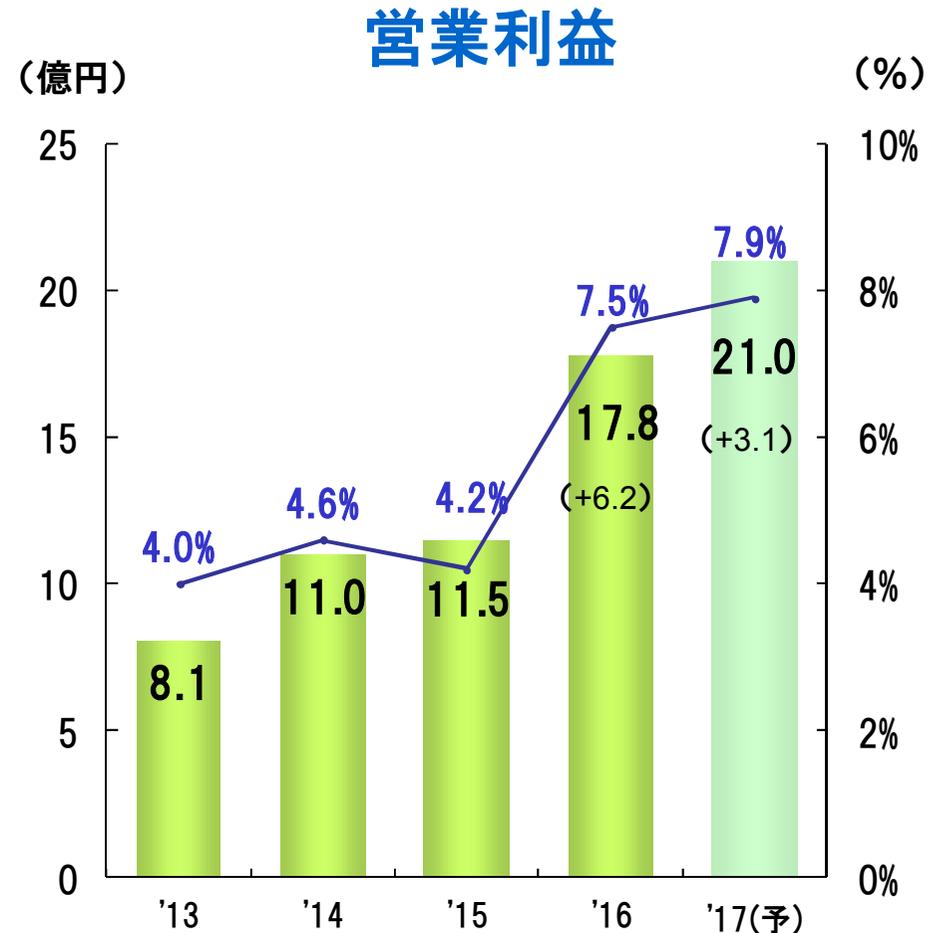
## 2-10 地域別セグメント:北米



### <売上高>

2016年度: 米国第2拠点であるテネシーの売上増加があるも、為替換算の影響等により、前期を下回る。

2017年度: 新規車型の立ち上りや金型売上の増加などにより、当期を上回る見込み。

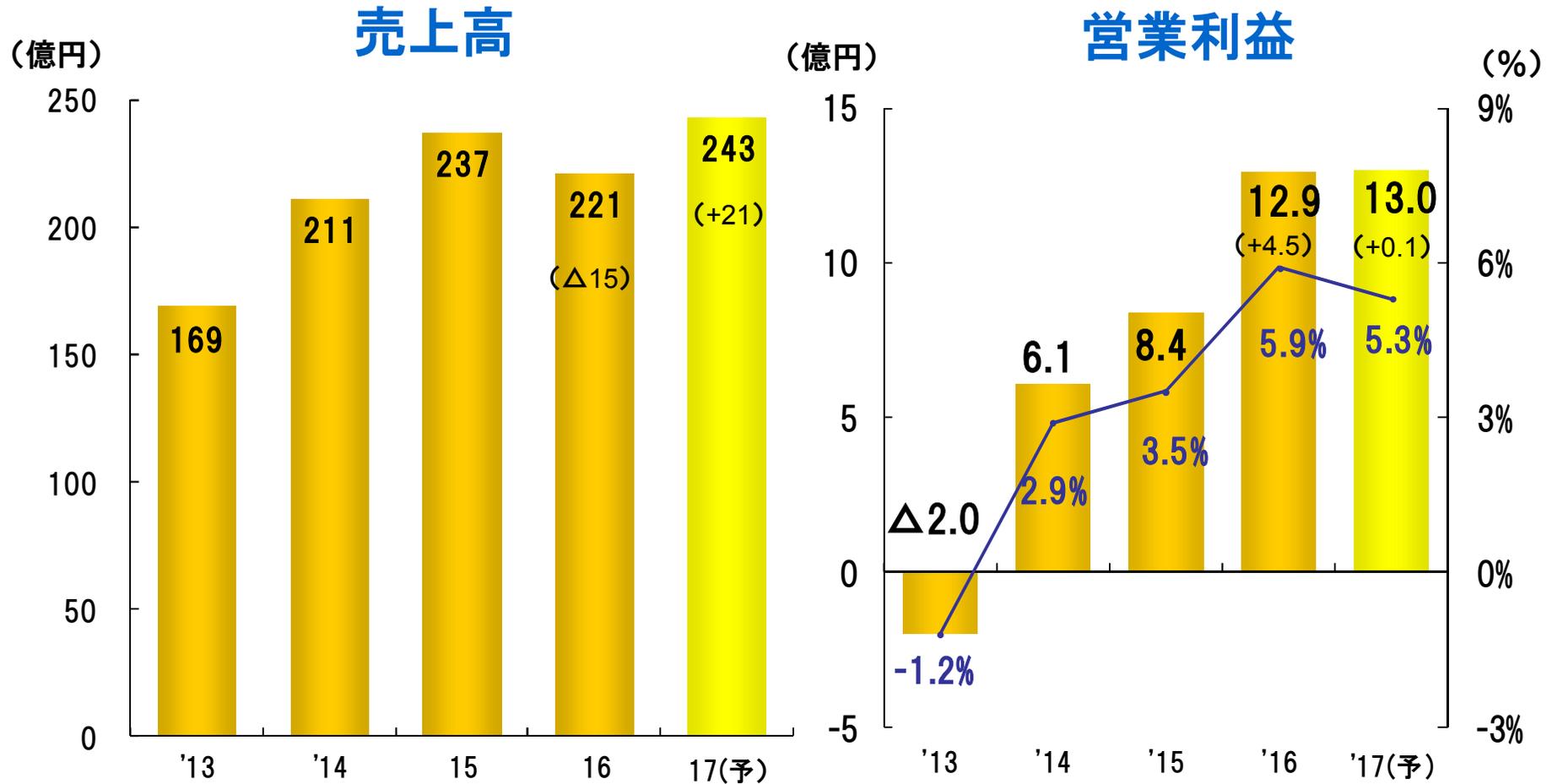


### <営業利益>

2016年度: 原価改善が進捗したことに加え、テネシーの子会社の立ち上げ費用の減少等により、前期を上回る。

2017年度: 減価償却費の増加等があるも、販売物量の増加や原価改善により、当期を上回る見込み。

## 2-11 地域別セグメント:アジア



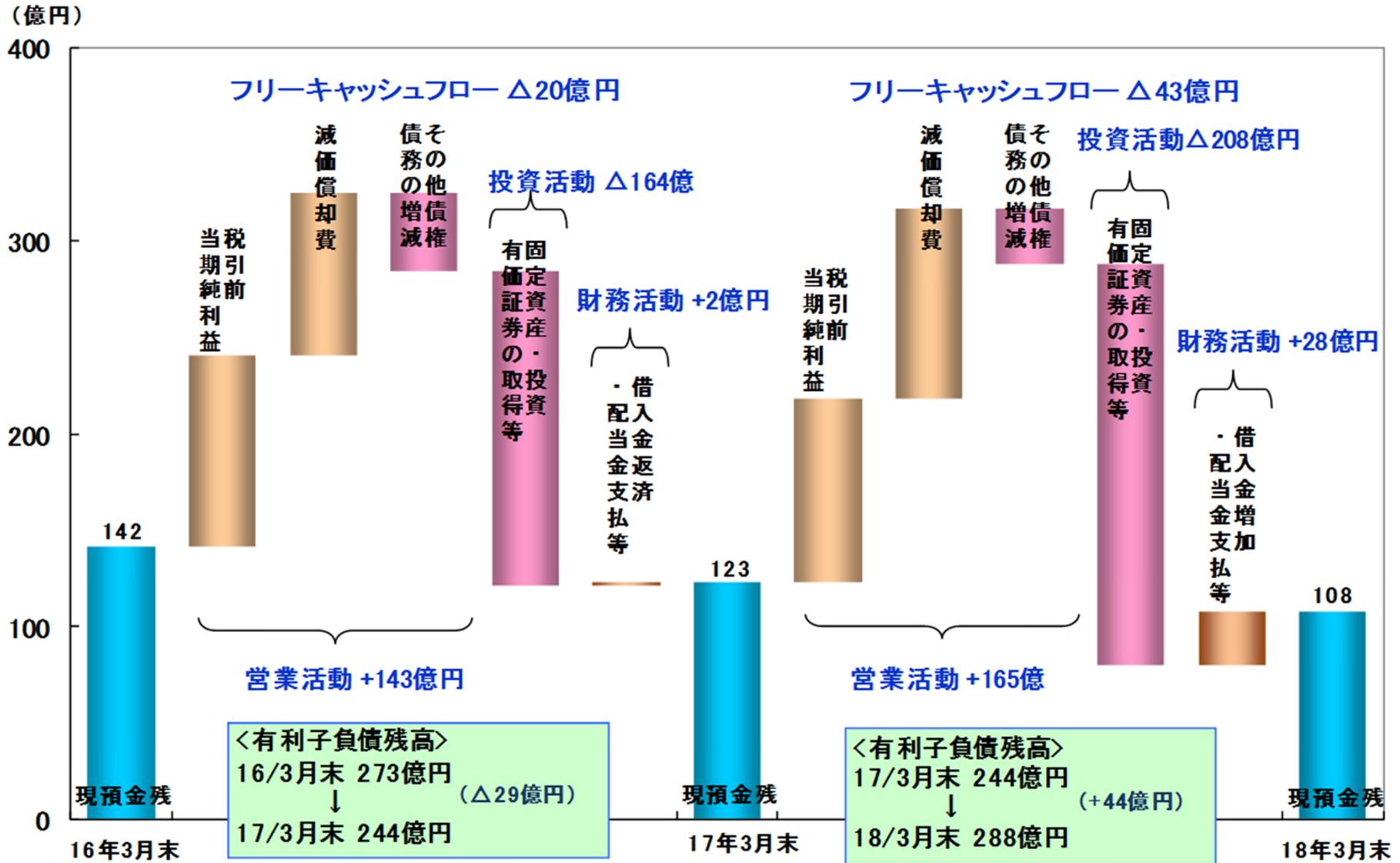
### <売上高>

2016年度:タイの樹脂事業や中国のTPMS事業の売上増加があるも、為替換算の影響により、前期を下回る。  
2017年度:中国でのTPMS生産の軌道化や新規車種立ち上がりに伴う拡販等が寄与し、当期を上回る見込み。

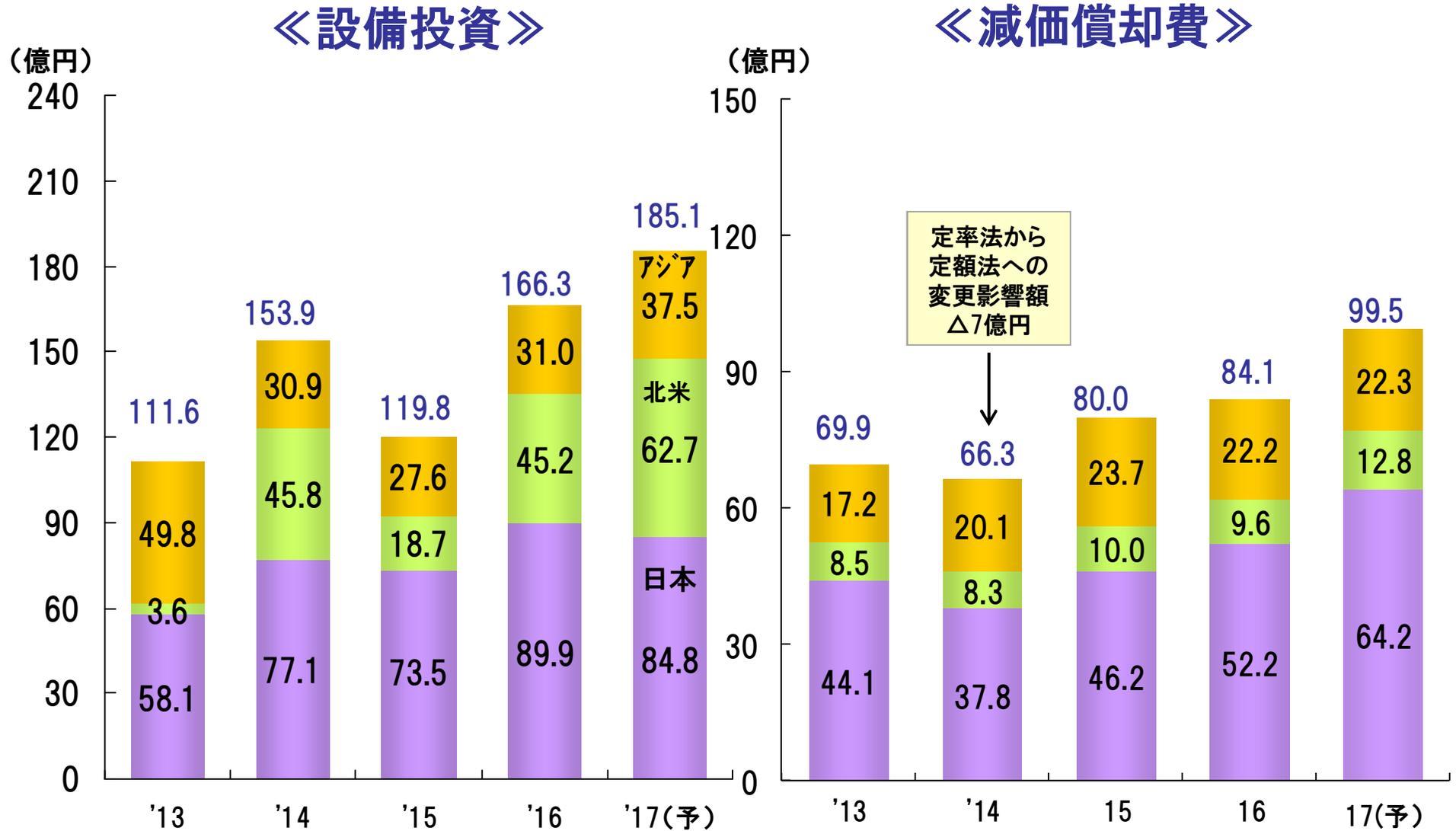
### <営業利益>

2016年度:販売物量の増加や新規立上げ事業の費用減少等により前期を上回る。  
2017年度:為替影響や労務費・経費増加等はあるものの、物量増加や原価改善等により当期並みを確保する見込み。

# 2-12 連結キャッシュフロー予想



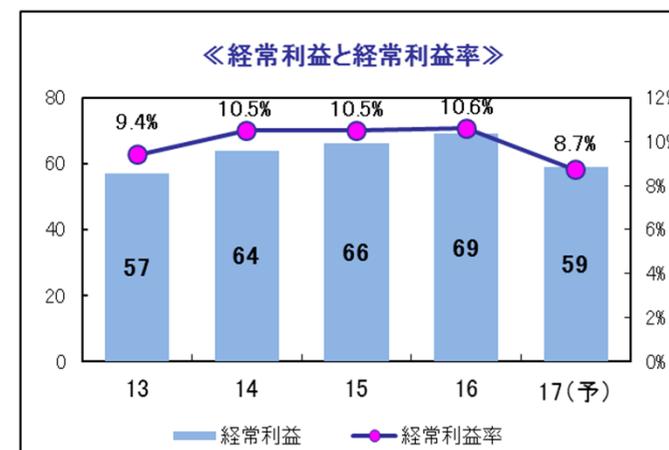
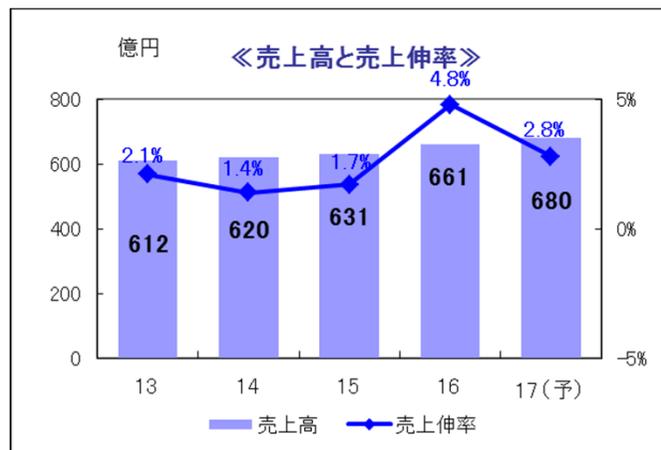
## 2-13 連結設備投資・減価償却費予想



# (参考) 2-14 個別業績実績・予想

[百万円]

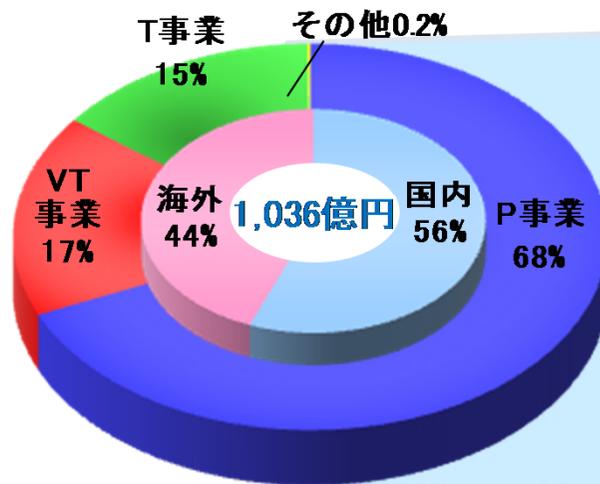
	15年度	16年度			17年度		
		実績	前期比		予想	前期比	
			増減	増減率		増減	増減率
売上高	63,146	66,168	3,021	4.8%	68,000	1,832	2.8%
営業利益	5,361	過去最高 5,362	1	0.0%	5,000	△362	△6.8%
経常利益	6,660	過去最高 6,987	327	4.9%	5,900	△1,087	△15.6%
当期純利益	5,350	過去最高 5,414	64	1.2%	4,100	△1,314	△24.3%
配当金(1株当り)	26	28	2	7.7%	28	—	—
売上利益高率	10.5%	10.6%	0.1%	/	8.7%	△1.9%	/
ROE	9.9%	9.2%	△0.7%		6.3%	△2.9%	
ROA	6.4%	6.6%	0.2%		5.4%	△1.2%	
一株当たり純資産(円)	996	1,065	69	6.9%	1,105	40	3.8%



# 3-1 中期経営計画「OCEAN-18」

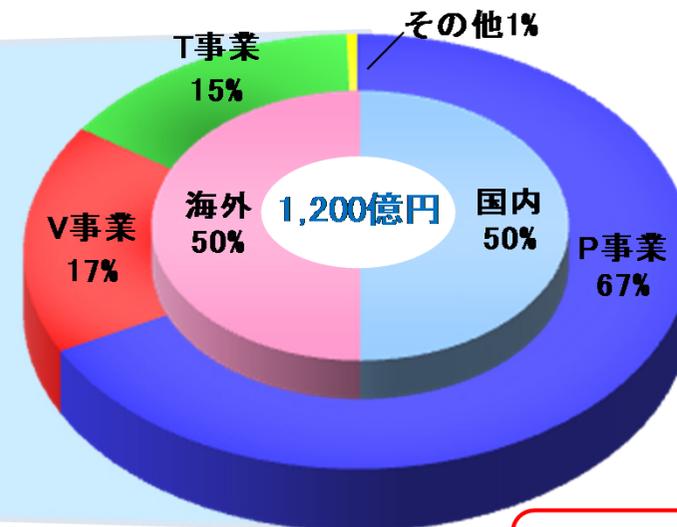
2018年度連結売上高目標:1,200億円

2016年度 実績



為替 109円/\$

2018年度 目標



為替 115円/\$

為替105円/\$  
売上:1,130億円

2018年度  
目標

連結売上高:1,200億円

連結経常利益率:8%台

海外売上高比率:50%以上

総資産回転率:1.05回転以上

P事業・・・プレス・樹脂加工 V事業・・・タイヤバルブ・空調バルブ・鍛圧・アルミダイカスト T事業・・・TPMS(タイヤ空気圧監視システム)

## 3-2 「OCEAN-18」の主な事業と拠点

### 各拠点において事業を拡充

機能		軽量化			意匠・防音・安全		安全・電子	高精度	
事業		プレス			樹脂		TPMS	鍛圧 <sup>※</sup>	ダイカスト
		冷間 プレス	ホット スタンプ	アルミ	インジェク ション	ウレタン			
主たる 技術・製品		1180MPa (3000TR)	1470MPa	FSW	フィルム 加飾	エンジン カバー	スナップイン タイプ	HV、 AT用部品	コンプレッサー エンジン部品
拠点	日本	○	○	○	○	○	○	○	
	北米	○	○	○	○	○	○	○	
	中国	○			○	○	○		
	タイ				○	○			
	韓国						□		○
	欧州						□		

○：生産拠点、□：販売拠点

※高精度プレスから事業名称変更

## 3-3 プレス事業の技術変遷

### 軽量化にこだわった技術開発

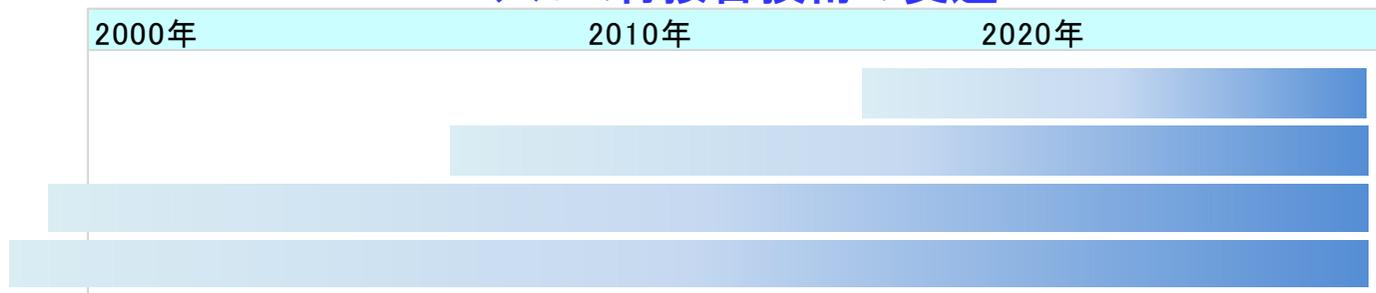
#### ■ 当社保有の加工技術

- ・超ハイテン材冷間プレス・ホットスタンプ・アルミ材加工技術

#### 超ハイテン材プレス加工技術の変遷



#### アルミ材接合技術の変遷



## 3-4 プレス事業の拡充

### 超ハイテン材プレス採用拡大と量産体制増強

- ・1180MPa級部品がTNGAボデーに採用 ・グローバル生産体制を拡充

工法	導入拠点		加圧能力 (t)	稼働時期
冷間プレス	日本	九州	3000	'14年2月
		大垣	3000	'14年10月
	米国	テネシー	3000	'16年5月
		オハイオ	3000	'18年春予定
	中国	天津	3000	'14年1月
ホットスタンプ	日本	養老	500	'14年5月
		大垣	800	'16年11月
	米国	テネシー	800	'17年秋予定

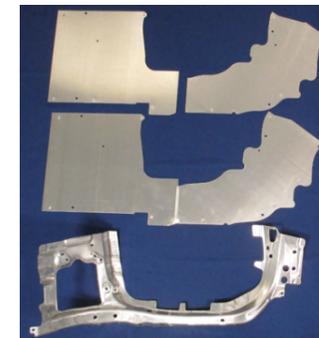


18年度売上高増加見込：  
15年度比約90億円

### アルミ摩擦攪拌接合(FSW)の開発

- ・板厚の違うアルミ材を摩擦熱で接合する技術
- ・軽量化と歩留り向上による原価低減 ・日米で展開

18年度売上高増加見込：  
15年度比約40億円





## 3-6 樹脂事業の拡充

### オールウレタン エンジンカバーの開発

- 基材とウレタンの二層構造から基材を廃止し、ウレタンのみのエンジンカバーを開発

コスト低減、軽量化、防音性能、歩行者保護性能を向上

2016年から日本と米国で  
量産開始



オールウレタン エンジンカバー

## 3-7 TPMS開発製品の変遷

専門メーカーならではの高品質製品を提供

### TPMS開発製品の変遷



### ■ 当社製品の強み

- ・日本唯一のTPMS送信機メーカー
- ・設計～開発～生産の一貫体制
- ・車両システムにTPMSを組み込むため、システムメーカーと協業



クランプインタイプ



スナップインタイプ

## 3-8 TPMS製品の拡充

### 各国順次法制化に伴い、開発・生産・販売体制を拡充

- ・グローバルで生産・販売体制を構築
- 各地域の法制化の動き

生産・販売拠点		(16年)生産能力	販売先
日本	大垣	2,100万個/年	世界全域
米国	オハイオ	350万個/年	北米、欧州
中国	常熟	350万個/年	中国、他
ベルギー	ブリュッセル	—	欧州
韓国	釜山	—	韓国
合計		2,800万個/年	

地域	法制化開始時期
北米	2005年10月
欧州	2012年11月
韓国	2013年1月
台湾	2014年11月
ロシア	2016年1月
中近東	2017年モデル
中国	(2019年1月)
日本	未定

#### ■韓国市場への参入

- ・2017年度から韓国の自動車メーカーへ納入開始

#### ■中国法制化に向けた体制整備

- ・2017年より常熟の生産能力増強

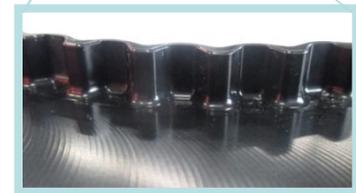
## 3-9 鍛圧事業の拡充

### 鍛圧事業は板鍛造技術を活かし拡販

#### ■ 当社の板鍛造技術

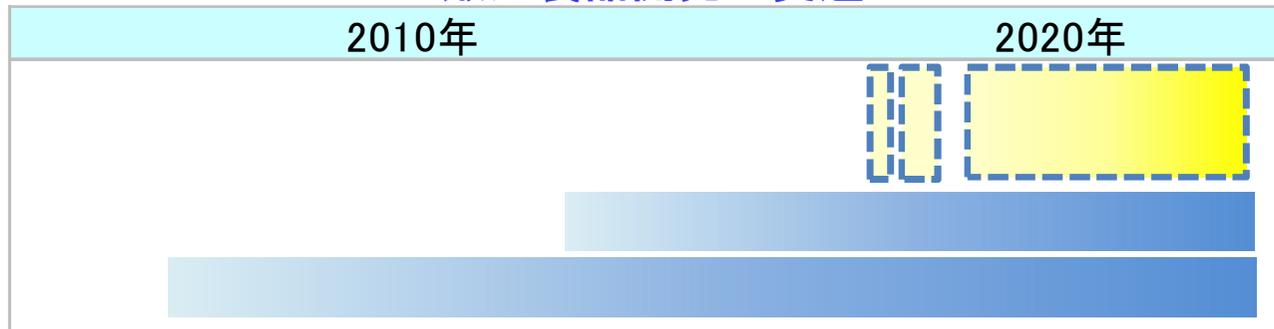
- ・板金成形と冷間鍛造を複合
- ・焼結・鋳造で成形不可能な薄肉化を実現

ワンウェイクラッチホールディング



歯型成形

#### 鍛圧製品開発の変遷



#### ■ 事業拡充

- ・17年度は国内での養老工場拡充、北米での生産開始

18年度売上高増加見込：15年度比約7億円

## 3-10 ダイカスト事業の拡充

### アルミダイカスト事業の生産能力増強

#### ■韓国におけるダイカスト事業

- ・カーエアコン用コンプレッサー一部位の一貫生産体制を構築
- ・エンジン補機部品・電動コンプレッサー一部位への拡大



カーエアコン用  
コンプレッサー一部位

ダイカスト製品開発の変遷



18年度売上高増加見込：15年度比約20億円

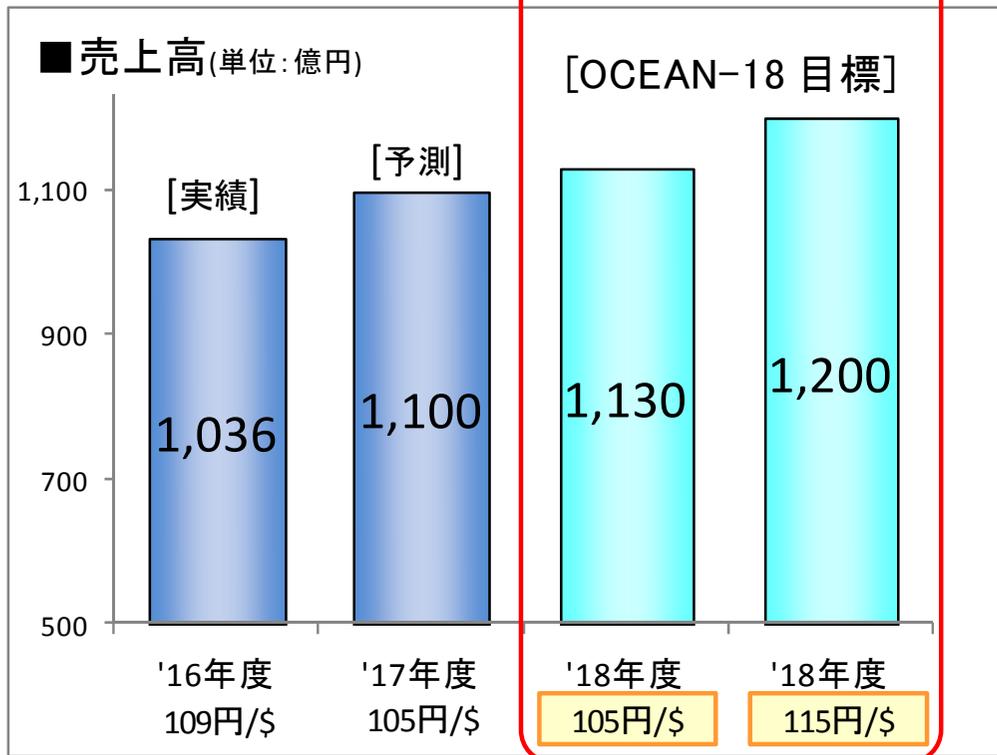
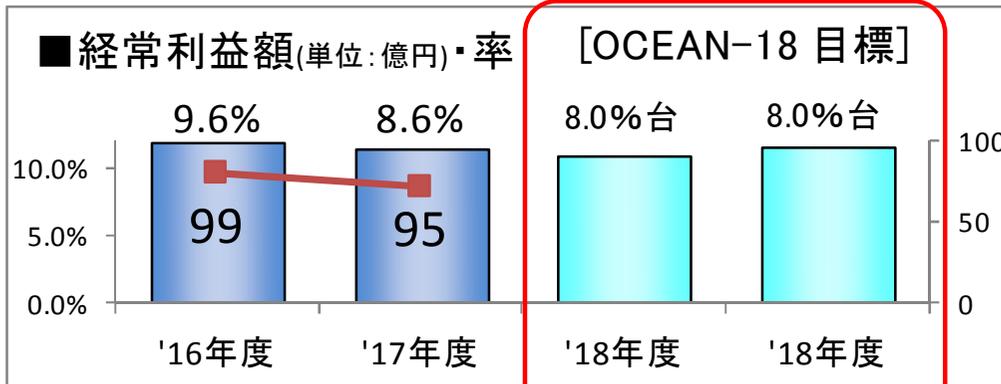
## 3-11 主な戦略投資の内容

### 15～17年度 主要な投資と拠点整備

(単位:億円)

事業	地域	内容	15年度	16年度	17年度
プレス樹脂	日本	東北地区拠点整備(プレス・溶接一貫工場建設)			
		超ハイテン、ホット・スタンプ拡充			
	北米	米国オハイオ プレス工場増築・プレス増設			
		米国テネシー プレス事業拡充			
	アジア	タイ 工場・樹脂設備 他			
小計					
TPMS	アジア	中国常熟 TPMS工場・設備			
	小計				
バルブ	日本	鍛圧事業の増強			
	アジア	韓国 アルミダイカスト工場・設備			
	小計				
主な戦略投資の合計			50	69	103
総投資額			120	166	185

## 3-12 「OCEAN-18」の達成状況



■ '18年度 売上・利益目標  
の目途付けが完了



新中期経営計画  
「OCEAN-20」を策定し  
第2四半期決算発表時に  
ご説明予定

(ご参考)

# 当社の概況

- ◆創業 1930年8月
- ◆代表者 社長 小川信也
- ◆株式 東証・名証一部上場('70年8月) 証券コード:7250
- ◆格付 A-(安定的)

セグメント		プレス樹脂製品 事業	バルブ製品事業		その他	合計
事業			タイヤバルブ・制御機器事業	TPMS事業		
連 結	'16売上高	708億円 (68%)	326億円 (32%)		1億円 (0%)	1,036億円
	人員	2,290人	1,030人		65人	3,500人
	海外生産拠点	台湾・米国 中国・タイ	台湾・韓国・タイ	米国 中国	—	5ヶ国 10工場
主要製品		プレス加工 樹脂加工、金型	タイヤバルブ、バルブコア 空調用制御弁 カーエアコン用コンプレッサー部品	TPMS	ソフトウェア 保険代理店	
主要顧客		トヨタ、ダイハツ、日野 三菱、ホンダ、スズキ SUBARU、いすゞ、長城 プライムアースEVI+ジー	ブリヂストン、横浜ゴム、住友ゴム イノアック、ミシュランタイヤ、トピー工業 デンソー、豊田自動織機、サンデン、HANON ヴァレオ、パナソニック	トヨタ 日産 ホンダ	地域企業	
単 独	'16売上高	416億円 (63%)	109億円 (17%)	135億円 (20%)	—	661億円
	主要工場	西大垣・東大垣・養老 九州・栗原・若柳	北大垣・美濃	北大垣	—	国内8工場

(ご参考)

# 企業結合の状況

	プレス・樹脂製品事業	バルブ製品事業	その他		
連結	台湾	太平洋汽門工業股份有限公司 1984年設立	国内連結子会社		
	タイ	Pacific Industries (Thailand) Co., Ltd 1989年設立			
	米国	Pacific Manufacturing Ohio, Inc. 1999年設立			
		Pacific Manufacturing Tennessee, Inc. 2014年設立			
	中国	天津太平洋汽車部件有限公司 2005年設立		韓国	太平洋バルブ工業株式会社 1987年設立
		長沙太平洋半谷汽車部件有限公司 2011年設立			太平洋エアコントロール工業株式会社 2004年設立
	国内	太平洋産業株式会社 1974年設立		中国	太平洋汽車部件科技(常熟)有限公司 2014年設立
	持分法適用会社	PECホールディングス株式会社(日本) 1961年設立		欧州(非連結)	Pacific Industries Europe NV/SA 2012年設立
					持株会社等
					Pacific Industries USA Inc. 1988年設立
			太平洋工業(中国)投資有限公司 2012年設立		

# (ご参考) PACIFIC GLOCAL VISION 2020

GLOCALとは、「GLOBAL」と「LOCAL」を組み合わせた造語です。私達は、世界(GLOBAL)を舞台に成長を図り、それぞれの地域(LOCAL)の発展に貢献したいと思っています。

## めざす企業像・機能のあり方

< 創立100周年 2030年への一里塚として策定 >

- 「連結経営」から「融合経営」へ
- 5つの“シンカ”(深化・進化・新化・真価・信加)を追求する企業

## 5つの“シンカ”



- 深化** : 改善する力
- 進化** : 革新する力
- 新化** : 新技術・事業を起こす力
- 真価** : 企業価値を高める力
- 信加** : 信頼を勝ち取る力

## CSRのトライアングル



(ご参考)

# 100年企業をめざして

## PACIFIC VALUES

(創業85周年を機にグループ共通の価値観を整理)

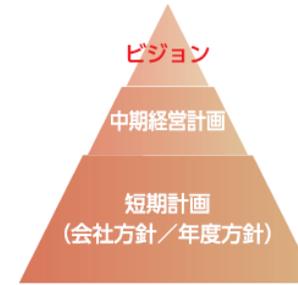
PACIFIC VALUES



価値観体系

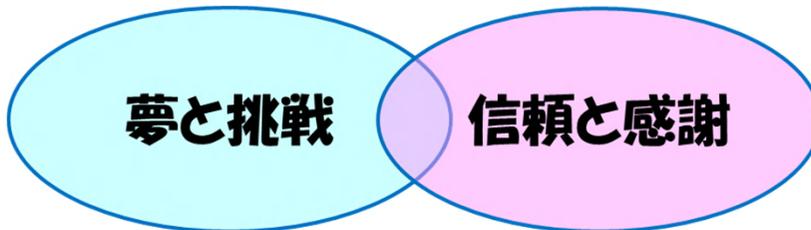


理念体系



方針体系

## 私たちの心構え



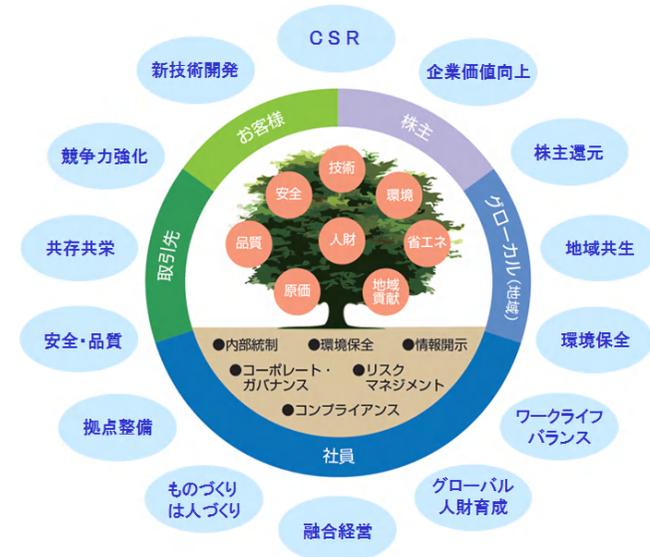
### 【夢と挑戦】

- ・常に夢(目標)を持ち、失敗を恐れず挑戦する。
- ・失敗しても次の夢への糧にし、その夢を追い続ける。

### 【信頼と感謝】

- ・「和」を大切に、常に相手の立場に立って考える。
- ・自然に「ありがとう」という言葉が生まれる風土をつくる。

## 企業価値向上の取組み



## (ご参考) コーポレートガバナンス・コード: 全73項目を遵守

### 「5つの基本原則」

#### ①株主の権利・平等性の確保

株主総会における議決権行使環境の充実化(インターネット議決権行使、招集通知の3週間前開示)等

#### ②株主以外のステークホルダーとの適切な協働

ステークホルダーとの相互信頼・共存共栄(経営陣から独立した相談窓口)等

#### ③適切な情報開示と透明性の確保

経営課題、リスク等の非財務情報の適時・適切な開示

#### ④取締役会等の責務

事業の戦略的方向付け

透明な経営プロセスの構築(社外役員連絡会、役員テーマ懇談会)等

#### ⑤株主との対話

投資家目線での対話、基本方針・目標の提示と具体的アクションの説明

(ご参考)

# 16年度の受賞歴

2016年“超”モノづくり部品大賞『自動車部品賞』受賞  
2016年日本アルミニウム協会賞『技術賞』受賞

## ■アルミ材の摩擦攪拌接合(FSW)の開発

- ・軽量化と歩留り向上による原価低減



『新ポップアップフードシステム』でトヨタプロジェクト表彰を受賞

## ■ポップアップフード ヒンジ開発

- ・歩行者保護と車両の意匠性を両立したポップアップフードヒンジを開発



Project Award  
LEXUS  
LC500 LC500h

新ポップアップフードシステム  
太平洋工業株式会社 殿

4点式ポップアップフードシステムの開発により、フード前側の高さを大幅に低減。LCのエモーショナルな意匠の実現は、本技術なしではあり得ませんでした。また、小型・軽量化による慣性諸元向上で、走りにも貢献いただきました。ありがとうございました。

Lexus International Co.  
ZL3 Chief Engineer Koji Sato